

総合的な学習の時間 学習指導案

1. 日時・場所 令和元年12月6日(金) 4校時
2. 単元名 「小田原のみかんを守ろう」(全40時間 本時33時間目)
3. 単元目標

- 小田原のみかんを調べる学習を通して、自他の良さを生かしながら協力し問題解決に取り組む。
- 小田原のみかんを守っている人や組織、環境に焦点を当て、探究的な活動を通して、地域の特徴や人々の努力と工夫によって、自分たちの生活が支えられていることに気づく。
- 仮説を立て調べて得た情報を基にして、根拠を明らかにして考えたり、まとめたりする活動を通して、自ら社会に参画しようとする態度を育む。

4. 「ひびきあう三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり
中学年ブロックテーマ「追究する力、仲間と支えあう自分」
・自分の問題をとことん追究する姿
・仲間として協働して追究する姿

(1) 児童の実態

<4年生の子どもたち>

一人一人違って当たり前だからこそ、お互いの良さを認め合い、悪いところも受け入れながら生活している。そのため、**友達のよいところを褒め、頑張っているところを励ましている姿**を見かけるようになってきた。

長縄集会に向けて「クラスでどう取り組んでいけば良いのか」の話し合いでは、「できないことを責めるのではなく、どうやったらうまくできるようになるかを考えていきたい。」「大きな目標を立てるのではなく、少しずつ目標回数を増やして行って、目標をクリアしていく事が増えるとみんなが楽しく跳べるようになる。」などの言葉が聞かれた。行事や活動の中で、自分や友達が前向きに取り組めるよう考えることが、相手を責めず、認め合えることにつながると思うようになってきている。

しかし、まだ、自分の思いだけを口にしたり、行動したりすることもある。そのことが、相手を傷つけているということに気付いており、「つい、言っちゃった。」と後悔していることもある。**自分の言葉や行動の先には、相手の感じる心があるということ**を伝えているところである。

<聴く・話すについての指導>

「人前で話すことが、得意な子、苦手な子」「自分の考えをすばやくまとめられる子、じっくり考えた子」「友達の考えが気になり自信がない子、気にならない子」など個人差が大きい。また、「話す」ということを「自分の考えを披露する」と捉えている子や、自分の考えをまとめてから正解の答えを話さなければならないと思っている子が多くいた。「聴く」ということについても、ただ、聴いているというだけで、「考えながら聴く」と意識している子が少なかった。

そこで、「話す」ということを「**自分の考えを発信する**」、「**聴く**」ということを「**相手の考えを受け取る**」と意識づけるようにしてきた。

朝のスピーチでは、テーマをくじで引いてそのテーマで話をする活動を行っている。前もって考えてきたことを話すのではなく、くじで引いたテーマを瞬時に、その場で考え話すことを目的としている。

テーマについては、あらかじめ、子どもたちが考えカードに書いて箱の中に入れておいた。そのテーマをカードに書く時にも、「自分が話せることを書こう。」「聴いて楽しいことにしよう。」「相手が嫌がることや、聴いて嫌な思いになることをテーマにするのはやめよう。」と、自然と「相手を大切にする」という心が元になっている会話ができるようになってきている。

しかし、「聴いて反応する」ということには時間差が生じるため、すばやく反応できる子が、すぐに会話を進めていってしまうことが多い。そのため、じっくり考える時間をもってから話し合うことの良さやお互いにより高め合える良さに気づけるように、指導しているところである。また、無邪気に何でも思いついたことを話せる子と、間違えたら恥ずかしいと思っている子とが二極化していたため、**グループでの話し合いを大切にしてきた。**

「3・4人のグループで話し合うこと」については、

- ① 司会と書記、発表者を決める
- ② ワークシートには、それぞれの考えを書き込んでいく。
- ③ 一人の発言に必ず、「そうだね。」「こういうこと？」など反応する
- ④ 話し合いながら、グループの意見としてまとめていくことを考えながら、話したり聴いたりする。ということに留意してきた。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

理科の「電気のはたらき」の学習では、「モーターカーをどうやったら速く走らせられるか」という学習問題をグループで話し合った。回路図を描いたり、走っている様子を見たりしながら考えた。電気の流れについて話したり、理由はわからないけれど、つなぎ方によって速さが変わるのではないかと考えたりして、友達一人一人の思いを大事にして話し合いをしていた。

グループでは、「自分の考えを話すと、友達がそれに応えてくれるから充実感がある。」と子どもたちは話している。また、話せなかった子たちも、「そういう風に言えばいいのか。」「僕が話したことを、〇〇さんが、わかってくれていて、代わりに話してくれてうれしかった。」など、最初はただ「言う」だけだった子どもたちだったが、**試行錯誤しながら「話せること」「わかってくれること」が、楽しくなってきたようである。**

しかし、**全体での話し合いでは、まだまだ反応できなかつたり、聞き取れなかつたりすることがある。**関わることで、新たな発見につながったり、深く知る喜びにつながったりする。徐々にグループの人数を増やし、その経験を積み重ねていきたい。

(2) 単元と指導

<単元について>

① 単元設定までの流れ

社会の学習「県名を覚えよう」では、県名や県の特産物、有名な場所などを調べて、今まで行ったことのある場所や親戚がいる場所など、写真やものを見せ合いながら学習を進めてきた。その学習をきっかけに「県の特産物ってどうやって決められるのだろう」という問いから「特産物」について考え始めた。「特産物」は、「おいしいもの」「体に良いもの」「昔からあるもの」「たくさんとれたり、作られたりするもの」ではないかという仮説を立てた。そこで、「小田原のみかん」について、一つ一つ検証していった。しかし、「たくさんとれる」というところで、**生産量が減少している現実に出会い、「小田原のみかんを何とかしたい」「小田原のみかんを守りたい」と願いを持った。**

② 単元設定の理由

小田原のみかんの育つ環境を調べる中で、**農家の人や品種改良に携わった人、守っている人の思いに触れ、環境の良さに気づくことで小田原への愛着と地域の一員としての自覚を深めて行く**であろう。そして、絶対に小田原のみかんを守らなければならないと決意を持ち「どうしたら守れるかということ」を考える。そこで、「小田原のみかんをたくさん使うこと」が守っていくことになることを考え「加工品を

作る」「フレグランスを作る」「洗剤を作る」と具体的な方法について調査・研究が始まる。図書・インターネット等で情報を収集し、**整理・分析をおこなったり、専門的な知識や経験を持った人にアドバイスをもらったりする中で、自分たちが生きていく上での人や社会とのつながり、関わることの良さと心強さを実感することになる**であろう。

<指導について>

これまでの学習を想起したり、もっと知りたいことを友達と話し合ったりしながら、KJ法を用いて、「なぜ?」「どうして?」をたくさん出し合ってきた。その中で解決できるものは解決していき、より追究したいものを話し合いながら精選し、問題を作ってきた。

特産物としてのみかんを調べることで「みかん」そのものの良さを知る。そして、みかんの生産量に着目することで、その良い「みかん」の生産量が激減し、一方「りんご」の生産量は伸びてきている資料を提示していく。そこで、「なぜ、減ったの?」「果物のすべてが減っているわけではないのになぜ?」「どこに原因があるのだろうか?」「農家が減っているから?」「農地が減っているから?」等、疑問は深まるであろう。子どもたちは、「このままではいけない」「なくなってしまったら、悲しい。」と思い、**どうしたら小田原のみかんを守れるのだろうか?**という子どもたちの解決したい問いが生まれる。

子どもたちは、すぐに「チラシを作って配れば良い!」と考える。そこで、詳しくわかっていないが安易にチラシ作りをすることの難しさに気づかせる。その困り感から、調べたいことが考えられるようになるだろう。インターネットや図書だけでは「小田原のみかん」の情報が乏しいため、みかん農園や農業技術センターに行き、実物を見て農家の人や品種改良に携わっている人の話を聞くことで、理解が深まるだろう。「受け継いでいってほしい」「10年20年先を見越して品種改良している」という思いに触れ、一つ一つのみかんには、たくさんの思いが詰まっていることを知り、だからこそ、守らなければならないといっそう思いが強くなっていくと考える。そこで、小田原で柑橘類の守っている人と出会うことで、どのようなことができるか相談に乗ってもらいながら自分たちができることを考えていく。「みかんをたくさん使う方法を見つけ出すとみんなに喜ばれる。」とアドバイスをもらうことで、子どもたちにとって、「どうやったら、多く使うことができるか。」が、より切実な問題になっていくだろう。

本時は、「**どうやったらみかんを多く使ってもらえるだろう?**」ということが、問題になる。それに対して、「**一人一人が、生産者の思いに寄り添いながら、よりよい方法を考えようとする姿**」をひびき合う姿としていきたい。みかんの量に視点を当てて話し合うが、「一つの製品にみかんをどれくらい使うか」「使う人の年齢」「製品の使用頻度」「製品の使用量(1日・1ヶ月・1年)」「使う時期」ということで焦点化し、数値的に可視化していきたい。また、自分の考えが話せなくても、自分の思いに近い人の意見にネームプレートを貼ることで意思表示するようにしたい。自分の提案にこだわることも予想されるが、よりよいものは、「一番多く使えるもの」ということを根拠に考え話し合えるように、メリット、デメリットなど比較の対象を明確にするように板書する。また、顔を見て考えを交流できるように話し合う場を工夫していきたい。

- 小田原のみかんを調べる学習を通して、自他の良さを生かしながら協力し問題解決に取り組む。
- 小田原のみかんを守っている人や組織、環境に焦点を当て、探求的な活動を通して、地域の特徴や人々の努力と工夫によって自分たちの生活が支えられていることに気づく。
- 仮説を立て調査して調べて得た情報を基にして、根拠を明らかにして考えたり、まとめたりする活動を通して、自ら社会に参画しようとする態度を育む。

これまでの学習から課題を作る

神奈川県の特産物をしらべたい！①②

- ・かまぼこ みかん ひもの 大根・・・
- ・特産物って、どうやって特産物になったの？
- ・小田原のかまぼこや梅は、3年生の時に詳しく調べたからわかるけど、「小田原のみかん」ってそうなのかな？
- ・なんで、特産物になるんだろう？
- ・おいしいから？・成分がいいから？・昔から作っているから？

特産物の意味を考えることで小田原のみかんについての視点を持ち詳しく調べることができる。

今、とれている柑橘類が、あるのかな？どんな味がするのかな③

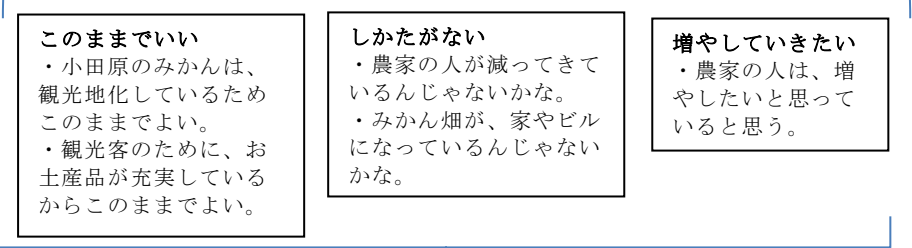
- ・夏みかんが採れるらしい。・食べてみたいな。・夏みかんを食べてみよう。・夏みかんで、何か作ってみたいな。
- ・マーマレードを作ってみたいな。・栄養教諭に作り方や夏みかんの良さを聞いてみたいな。

マーマレードを作ってみよう④⑤

- ・甘酸っぱいな。・おいしいな。・地産地消ってあるんだね。・無農薬で形は悪いけど味に変わりはないんだね。
- ・夏みかんは、たくさんとれるんだね。
- ・他のみかんもたくさん採れるのかな？・おいしいし、たくさんとれるから特産物じゃないのかな？
- ・生産量は減ってきているみたいだよ

小田原のみかんは、本当にたくさんとれるのだろうか⑥⑦⑧

- ・生産量は減ってきている



- ・小田原のみかんは、種類も豊富だよ。
- ・お土産を増やしている努力をしているんじゃないかな。
- ・りんごの生産量とみかんの生産量のグラフを見ると、りんごは増えているよ。
- ・みかんの方が多かったのに、りんごに追い抜かれている。
- ・このままだと、みかんを育てる人もいなくなり、小田原みかんも、減り続けると悲しい。
- ・みかんを守らなければならない。

小田原のみかんについて、問題点を踏まえ、課題を見つけていく
「課題設定力」

栄養教諭から「小田原産」の作物や「地産地消」について説明を受けることで小田原のみかんの良さに気づく。

生産量が減っている原因を探ることで自分たちの生活と結びつけるようにする。

グラフや表を読み取り、生産量の推移から、その要因を考えられるようにする。

これではいけない！「小田原のみかんを守ろう！」⑨

- ・もっとみかんを食べたらいい。
- ・インスタで、紹介すればよい
- ・SNSは一度限りになってしまう。危険。
- ・見た目だけでなく魅力を発信していけばよい。
- ・一度だけでなく何度も買ってもらえるようなことを考えたい。
- ・小田原のみかんの良さを発信すればいいんじゃない？
- ・小田原のみかんの良さって何？おいしい？
- ・小田原のみかんの魅力って何？

インターネットを利用したり、栄養教諭にインタビューしたりして、情報を集める
「情報収集の力」

小田原のみかんの魅力って何だろう？⑩

- ・インターネットや本で調べてみたい。
- ・小田原のみかんだけでなく、「みかん」はどこに、魅力があるのかな？

「みかん」には、どんな良い成分が、あるのかな？⑪⑫⑬

- ・インターネットを使って調べた。
<わかったこと>

みかんの魅力について、調べること、みかんをもっと身近に感じられるようにする。

<みかんの成分>
～みかんを食べると～
ビタミンC
抗酸化作用 老化防止 若返り
けがをしにくい
傷が早く治る
ストレスへの抵抗を強める
皮膚を強くする

小田原のみかんについて、解決方法や手段を考えて活動の計画を立てている。
『課題設定力』

「わたしたちの小田原」を手がかりに、3年生の学習を思い出しながら、みかんの育つ場所について、考えを巡らせるようにする。

調べたことを元に「新聞に表すこと」で考えをまとめる。

～こんなにいいことがあるんだ～

<学習感想>
・小田原のみかんは、どうやって作られているのだろうか？
・小田原のみかんは、海に近い方がいいらしい。なぜだろう？
・山の斜面で作られているのは、日当たりや、水はけが良いからって、3年生の時習ったよね。
・相模湾がいいらしい。なぜだろう？
・塩水がかかると、いいことがあるんじゃない？
・どんな場所で、作られているんだろうね。なんで、その場所を選んだらうね。
・それに、小田原のみかんは、いっぱい種類があるよ。
・どうやって育てているのか知りたいな。
・品種改良しているらしい。
・どうやって、甘いみかんを作っているの？
・たぶん、種に砂糖をかきこんでいるんじゃない。

国語の「依頼文を書く」の合科で依頼文を書く。

どんなところで育っているのだろうか。いっぱい種類があるのはなぜだろう。⑭

<予想> ・暖かいから、山の斜面で育てられている。 ・品種改良していると思う。
・僕のおじいちゃんちで、みかん作っているよ。
・品種改良もしているって言ってたよ。
・おじいちゃん家に、手紙を出して聞いてみよう
・「農園に来ていい。」と言ってくれたよ。
・農園に行って、みかんを育てている様子を見てみよう。

小田原のみかんについて、自分たちの生活と関わりを考えながら追求し、自分たちができることを考え実践しようとする
『問題解決能力』

農園に行ってみよう⑮⑯⑰⑱

農家の方の話の聞き取り、実際に栽培している様子を見ることで、みかんが大切に育てられていることを知る。

大はまさんから手紙が届く
みかんへの思いとみんなへの感謝が詰まっていた

小田原のみかんを守りたいと思いを強くした

<わかったこと>
<場所>
・昔から温暖で、住みやすい場所だった。
・斜面を利用して、太陽の光が当たるようにしている。
・みかんが育つには、温度が大事。
・昼は、太陽 夜は、陸地が冷えるけれど、海の水は冷えないので暖かい。空気が斜面を上がっていくから、冷えない。
・マイナス5度になると、木が枯れてしまう。だけど、暖かい空気のおかげで冷えることはない。

<種類>
・ネーブル・・・たくさんあった。
・斜面にいろいろな種類の木が植えてあった。
・甘い実を作るために、甘い実をつける枝を切って、「からたち」の木につけるんだよ。
・甘い実の穂を、みかんの雌花につけるんだよ。
・今のみかんは、種を作らないようにしているから、いろいろ工夫しているんだよ。
・甘いみかんを作るのに10年以上はかかるんだよ。
・甘いみかんを作ることと、品種改良は、違う。

<学習感想>
・草刈りとか、手伝いたいな。育つ様子を見て、みたいな。・11月頃はどんな感じなんだろう？知りたいな。・貯蔵みかんって、あるらしい。・無農薬で、作っている。・ドレミふぁーみに卸している。・どのくらい売れているのだろうか？・農林水産省が、品種改良をしていて、普通の農家は、できないんだよ。新しい品種ってどうやって作っているんだろう？

みかん作りを通して、これまで育ててきた植物と関連づけながら理料的なものの見方ができるようにする。

品種改良しておいしいみかんをつくれば売れて広まるみんなに知ってもらえるとされる！

どうやって、品種改良しているのかな？⑲

自分たちの考えや実践を相手にわかりやすく工夫して新聞にまとめている
「人ともに関わる力」

<予想>
・接ぎ木をしているんじゃないかな。・化学物質を入れているんじゃない？
・僕だったら、甘いみかんを作りたいな。甘酸っぱいのが好きなお子もいるよ。
・味とか皮の厚さとか、好みに合うものを作っているんじゃない？
・試験場があるらしい。・試験場に行って聞いてみたいな。

農業技術センターにいってみよう⑳㉑㉒㉓

<わかったこと>
後継者不足
斜面は急なので木が大きくなれないものを研究
甘いものは、病気になりやすいので作りやすいもの



好みに合うもの
改良のポイント
甘み・酸味・香り・食感・ジューシーさ・日持ち・収穫量・病気・玉揃え・寒さ・果皮の劣化の早さ

簡単に食べられているみかんだけでも、みかん一つ一つに、歴史や人々の思いが込められていることに気づかせる。

- ・育種はそう簡単にはできない
- ・どうしよう？
- ・みかん農家を守ることで小田原産のみかんが守れるのではないの？
- ・みかん農家ってどれくらいいるのかな

小田原のみかん農家はどれくらいいて、どれくらいみかんを作っているのだろう

- ・減っている・高齢者が多い
- ・でも若い人もいます・希望は若い人だ！
- ・若い人の思いを調べたいな

農家の人や品種改良している人の思いを知ること、よりいっそうみかんに対する思いを募らせるようにする。

どんな思いで農家をうけついでいるのだろう

- ・やりつづける
- ・やめる人が多い
- ・山あり谷あり
- ・やる人も多い
- ・みんなに支えられている

「多く使ってもらえるには」ということを考えることで、自分たちができることと結びつけられるようにする。

学んだことを、わかりやすく人に伝えるためにどうすれば良いかを考え、プレゼンテーションできるようにする。

<わかったこと>

- ・成分とか、詳しく研究しているんだね。
- ・この品種を作るのに何十年もかかっているんだね。
- ・うまいっていても、台風とかで木が折れたり、寒さで枯れてしまうこともあるんだね。
- ・ただ、食べているだけじゃなく、こんなに苦労が詰まっていたんだね。
- ・みかんは、小田原の環境にあっているんだね。
- ・みかんは、すごいものだと知ってほしい。
- ・もっと、食べてほしい。
- ・ほかにも、製品造りのために研究している人がいるみたいだ。
- ・小田原のみかんを守ろうとしている人がいるみたいだ。
- ・どんな風を守っているんだろう。話を聞いてみよう。
- ・小田原柑橘クラブというところの人らしい。

支え どのように、守っているのだろう②④

<予想>

- ・商品を作っているんじゃないかな。商品を作って販売してんじゃないかな。

支えてくれる人が近くにいた！ 小田原柑橘クラブの人に話を聞いてみよう②⑤⑥⑦⑧

自然環境との調和

- ・地産地消
- ・無農薬

報徳仕法

- ・自助努力
- ・互助精神

「片浦レモンプロジェクト」

- ・地域振興サイダー
- ・農家と商工業者と一緒で作っている

・農家からみかんを買って それを商品として売っているんだね。みかんをもっと使ってもらえると、農家さんも増えると思う。

・高級感を出して売ろうとしているんだね。みかんを守らなくては行けない！

・畑を手伝いに行く。

・みんなに食べてもらうように発信する。

・みかんケーキやクッキーを作る。

・保存期間が長いジャムを作る。

・守れるのだろうか？

・もっと、たくさんみかんを使ったり、食べたりするといじゃないかな。

・クッキー、ジュース、フレグランス、洗剤、入浴剤・・・お金をかけないで、もうけの多いもの

・今製品化されているもの以外で考えたいな。高級感・めずらしいもの・アレルギーなし・安心、安全キズ・人気のありそうなもの

・試作品を作ってみたい取材したことをまとめて、プレゼンテーションしたい。

・どうやってすればいいんだろう。

・農家を支えるために、何か商品を考えたい

・商品開発して、小田原柑橘クラブの方に提案してみよう

どんな商品が売れるかな？

・キズ、わけありみかんを使う

・みかんを多く使う

グループで考えたいな

それで良いものを提案したい

どうやったら、みかんを多く使ってもらえるんだろう②⑨⑩⑪⑫⑬本時 農家を支えるための商品が作れるの

Sunomaru Mikan Project 36 始動

	みかんを守るチーム タピオカ まんじゅう パフェ	もそはしたい 香水 チュロス パンケーキ	MG ジュース タピオカ	OM シェイク 大福 ドレッシング	36 大ぶく かぼちゃ リン	高級感 ヨーグルト カステラ 入浴剤 石けん
みかん使用量						
高級感						
めずらしい		○			○	○
消費期限 安心安全						○
人気						
対象者						

いろんな年齢層の人に、聴いてみたいよね。小田原駅とかでやらせてもらえるといいよね。小田急やJRの人に頼んでみようか。そのときに、小田原みかんの魅力をチラシにして伝えればいいんじゃない。

小田原のみかんの良さを発信していこう③④~④⑩

自分たちができることを考えて、実践していく

異なる考えや意見も受け入れながら、友達と協力して活動している。

「人ともに関わる力」

報徳神社内にある小田原柑橘クラブで支える活動をしているらしい

「適地適作」という言葉通り、小田原では、みかんが育つ良い環境があることに気づき、小田原を大切に思う心に触れさせたい。

コンセプトを決めない！

みんなの笑顔
お客のニーズ

10代
20代
30代
40代
50代
60代
70代~

「情報活用能力」「コミュニケーション能力」

ロングセラー商品

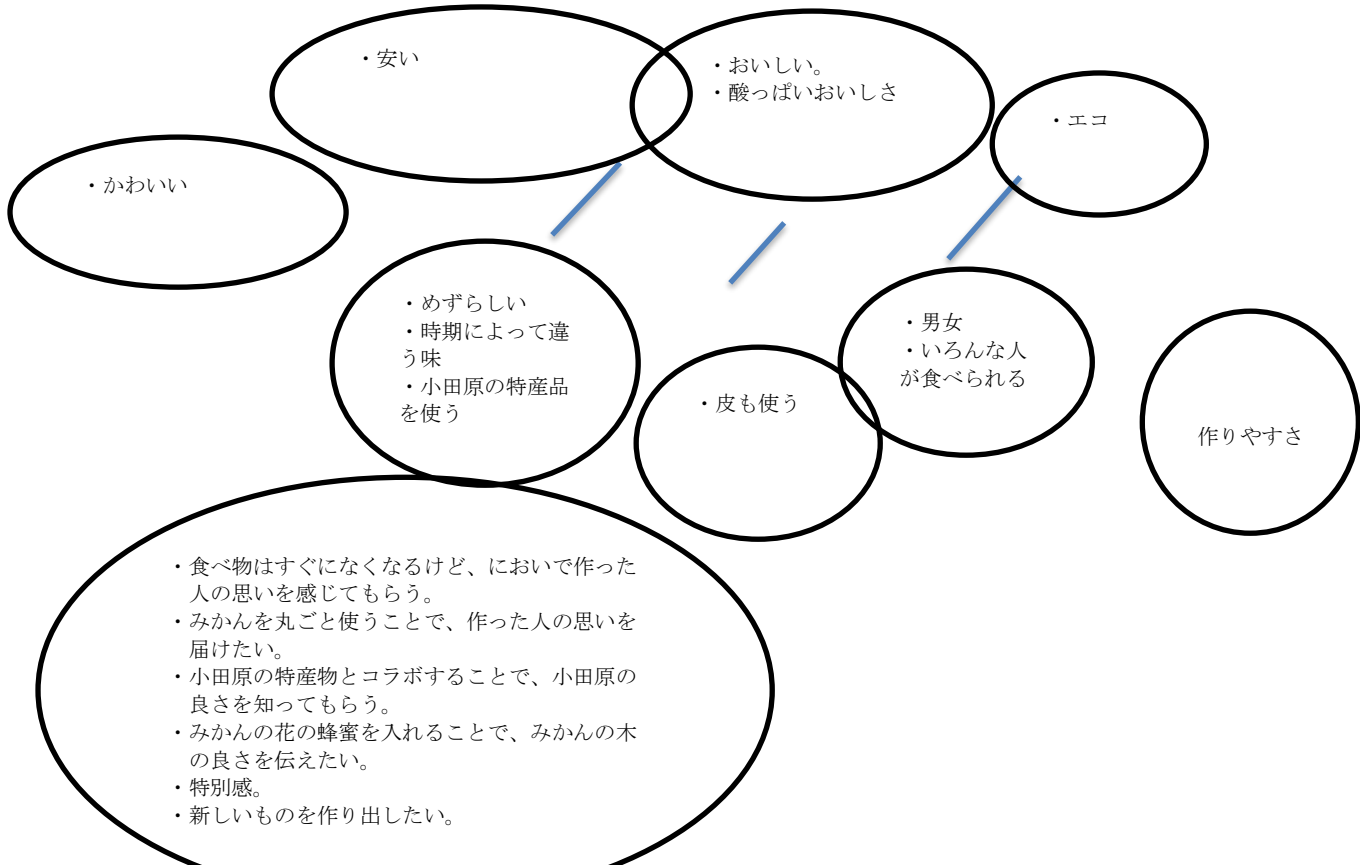
地域の方の思いや願いなど、理解したことを伝えようとする。

「人ともに関わる力」

6 本時について

(1) 本時目標 「どうやったら、農家を支えるための商品が作れるのだろう」について提案されたことに対して、自分の考えを持ち、よりよい方法を見つけ出そうと話し合うことができる。

(2) 本時展開

学 習 活 動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<div data-bbox="100 406 1115 550" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どうやったら、農家を支えるための商品が作れるのだろう</p> <p>Sannomaru Mikan Projecto 36始動</p> </div>  <p>The mind map consists of a central box and several circles connected by lines:</p> <ul style="list-style-type: none"> Top-left circle: ・かわいい Top-middle circle: ・安い Top-right circle: ・おいしい。酸っぱいおいしさ Far-right circle: ・エコ Bottom-left circle: ・めずらしい ・時期によって違う味 ・小田原の特産品を使う Bottom-middle circle: ・皮も使う Bottom-right circle: ・男女 ・いろんな人が食べられる Far-right circle: 作りやすさ Large bottom circle: ・食べ物はすぐになくなるけど、においで作った人の思いを感じてもらおう。 ・みかんを丸ごと使うことで、作った人の思いを届けたい。 ・小田原の特産物とコラボすることで、小田原の良さを知ってもらおう。 ・みかんの花の蜂蜜を入れることで、みかんの木の良さを伝えたい。 ・特別感。 ・新しいものを作り出したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のプレゼンテーションからもった自分の考えを再確認する。 ・前時に提案されたことを表にまとめて提示する ・自分の考えを主張するだけでなく、友達の考えも尊重できるように自分の提案以外のものの良さもを見つけるようにさせる。 ・提案されたことに対して、質問を用意しておくことで、それぞれの内容を深く考えるようにする。 ・使う量や使う人など話し合いの視点を明確にしていく。 ・「農家を支えるためにどんな商品がいいのか？」という生産者視点や「顧客のニーズ」という消費者視点に対してそれぞれ考えることで、選択する意味を持たせる。 ・実物や絵や写真を見せることにより、具体的に考える手助けになるようにする。 <p>◆これまで出会ったことや人の思いを思い起こしながら話し合える【人や物に関わる力】</p>

	香水	入浴剤	シェイク	ジュース	かまぼこ	まんじゅう
コンセプト	広がる香り	心も体も温まる 入浴剤 美肌効果抜群	みかんと蜂蜜が 奏でるハーモニ ー	栄養満点・健康 にいい！	みんなの笑顔あ ふれるかまぼこ	あなたの笑顔が そこにある
高級感 パッケージ 香り 味	パッケージ		富士山	富士山 金次郎	小田原産のかま ぼこ 特産品+特産品	パッケージにこ だわり 売るとき見本
農家に助かる みかんの数	皮	皮	2こ	みかんの収穫時 期によってみ かんの味が変わ る 2こ	農家とかまぼこ やさん 1こ	2こ
魅力 長く愛される 人気	簡単に作れる 一年中 さわやか感 男女 いろんなみかん でできる	簡単に作れる において癒やさ れる 効果がいっぱい	どんなみかんで もできる みかんの木を大 切に	簡単に作れる 子どもから大人 まで 大津みかん+グ ミ	夏ミカンで作る となるでも売 れる 子どもから大人 まで 栄養（みかんと 魚）	短時間で簡単に 作れる 子どもから大人 まで
買いやすさ 値段	5歳以上 500円	1袋あたり 200円	S M L ポ 250円	350円	鈴廣さん 1000円～	持ち帰り その 場でも 5こ400円
安心感 アレルギー	注意事項を書い ている	食べないからア レルギーはない		注意事項を書い ている	少ない	少ない
エコ			紙を使う	紙	環境に優しい	紙・水を使わな い

みんなが、笑顔になれるもの